



【特集】読書の秋

本との出会いを

楽しもう

あなたを変える本の力

大人になるにつれて、読書から距離を置いてしまっていないませんか。

町では子どもの頃から本を好きになり、読書に興味をもってもらえるよう、学校や図書館などでさまざまな取り組みが行われています。

本は人生を豊かに生きるための力を養い、人と人をつながる大切なツールとなります。

「読書の秋」に家族と一緒にお気に入りの一冊を手にとってみてはいかがでしょうか。



本との出会いを楽しもう  
【特集】読書の秋

町では、3月に第四次長島町子ども読書活動推進計画を策定し、子どもたちが人生を豊かにするために読書活動を推進しています。大浦慶子教育長が話した読書の魅力や読書活動を通じた町づくり、町の読書モデル推進校に指定されている平尾小学校の取り組みを紹介します。



本を通して交流を深めるペア読書の様子



子どもの成長にミルクが必要なように、読書は心の栄養として必要です。感動との出会いは想像力を育み、コミュニケーション能力の基礎を身に付け、主体的に生きる力を養います。特に乳幼児への読み聞かせは親子のふれあいとして、ぜひ取り組んでいただきたいです。

子どもたちがさまざまなジャンルの本に親しみ、物の見方や考え方を広げ、自らの言葉で表現できる力を育てていき、本に親しむ町になってほしいと思います。いつも身近に一冊の本があれば、心豊かな時間を過ごせます。



大浦慶子教育長

学校生活での読書活動推進

平尾小学校(宮ノ前香織校長・68人)では、毎月開催の音読発表会のほか、保護者や地域住民によるボランティア読み聞かせ、手紙をしたためおすすめの本を友だちや先生に紹介する読書郵便など多様な読書活動に取り組んでいます。

11月4日は、ペア読書を開催。これは高学年児童が本を選び、低学年児童に読み聞かせをする活動で、異学年の子ども同士で読書を楽しむことを目的とします。

1年生の小崎天志君は「読んでもらって楽しかった」と喜んでいました。



読書郵便の手紙をポストに投函する図書委員

子どもたちに読書の喜びを届けたい

町内では、子どもたちに読書の喜びを伝えるため、ボランティアが読み聞かせを開催していることをご存知でしょうか。

「おやどり読書会(下平忍代表)」は子どもたちに本に関心を持ってほしいとの思いで発足した地域ボランティアサークルで、会員約10人で年に数回活動しています。

同サークルは10月10日、鷹巣小学校(田島正英校長・193人)の朝読



1年生の読み聞かせの様子



おやどり読書会のメンバー

書の時間に全学年を対象に読み聞かせを行いました。

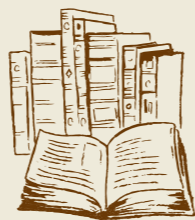
同サークルの上久美子さん(西)は「読み聞かせは継続することが大切。ある日、子どもが聞いたことのない言葉を発すると成長を感じます。サークル活動を通して、選書の楽しさやたくさんの子どものたちとの出会いで、こちらも元気ももらっています。今後も続けていきたいです」と笑顔を見せました。

図書館に行こう

町内には鷹巣図書館と指江図書館があり、両館とも小説やエッセイ、児童書、絵本など幅広いジャンルを揃え、毎月約60冊の本が入荷されています。貸し出しのほか、利用者に幅広いジャンルの本に興味を持ってもらうため特集コーナーを設けたり、読み聞かせを開催したりしています。



ハロウィーンの装飾がされた指江図書館内



両館で取り扱われる書籍は職員が実際に本屋へ足を運び選書したもので、話題の新作はすぐに仕入れ図書館の特集コーナーに並びます。

指江図書館職員の岩下ルミさんは「皆さんから読みたい本のリクエストがあればできるだけ応えて、取り揃えています」と話し、「読書の秋はぜひ図書館でお気に入りの一冊を見つけてみませんか」と呼び掛けました。



両館の図書検索システムのQRコードです。お探しの本をスマートフォンで検索できます。